



看取りの医者 平野国美さん : 「生きづらさ」

10月10日(木)の社会人講話でお話をしていただいたのは、本校全日制の卒業生でもある平野国美さんでした。老衰や悪性疾患のため避けられない死を迎える方々が自宅で最期を迎えられるような訪問診療を続けてこられ、「看取りの医者」として有名です。同名の著書は2011年にTBSの月9(月曜9時)でドラマ化され、つくば市を舞台に大竹しのぶさんや貫地谷しほりさんなどが出演して話題となりました。現在はホームオン・クリニックつくばの理事長であり茨城県立医療大学の客員教授も務めていらっしゃいます。

講話では、「ブラムスを聴きながら死にたい」と言っていた末期患者の方の話や、老人ホームから何度も脱走する男の人が脱走をあきらめて間もなく亡くなってしまった話など、平野先生だからこそ話せる具体的で興味深い話もしていただきました。また、自称発達障害の平野先生が、印度カリ子や長島茂雄、トム・クルーズなどはみんな発達障害だったという話もされ、いろんな多様性を肯定的に見ることの大切さも教えてくれました。先生の「自分の力で、落ちている石をお宝に変えることができる」、「物語はどこからでも書き換えられる」という言葉は、多くの生徒たちの心にも響いたことと思います。



定通生徒生活体験発表大会 茨城新聞社長賞

今年度の定時制通信制生徒生活体験発表大会は10月19日に鹿島灘高校体育館を舞台に行われました。本校からは2年生の石川直矢くんが出演し「20歳になってからの学校」という題で堂々と発表してくれました。担任の横田先生の指導のもと練習を重ねた甲斐もあり、23名のエントリーの中で、みごとに「茨城新聞社長賞」を獲得しました。おめでとうございます!



秋季定通体育大会の様子は次号で